

クロカジキ 太平洋

Blue Marlin, *Makaira nigricans*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
 北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会 (ISC)
 全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

最近一年間の動き

ISC は、WCPFC 及び IATTC と共同で、本資源の資源評価に向けたデータのレビュー会合を開催した。来年度には資源評価会合を実施する予定である。

生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：雄 130 ~ 140 cm、雌 170 ~ 180 cm
- 産卵期・産卵場：春～夏、赤道～南北 20 度
- 索餌期・索餌場：調査中
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類など

利用・用途

刺身、粕漬け、味噌漬け、惣菜、ステーキ、練り製品、味噌煮等の缶詰

漁業の特徴

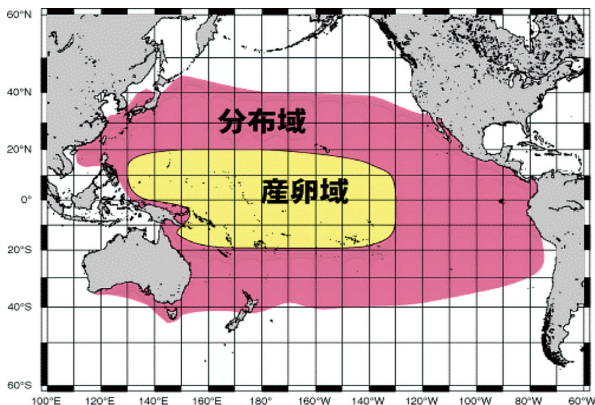
本資源が主対象とする漁業は沖縄のひき縄や、古くから各地にある突き棒など、沿岸零細漁業である。また、米国や中米諸国、オーストラリア、ニュージーランド、日本等のスポーツフィッシングでも主要な対象魚である。しかし、漁獲量の大半は、まぐろ類やメカジキが対象のはえ縄の混獲であり、また、流し網等でも混獲される。

漁業資源の動向

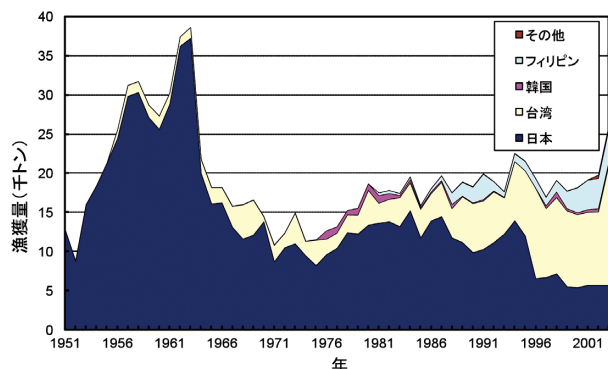
FAO 統計によると本資源の総漁獲量は 1950 年代に日本の漁獲増で 3 万トンを超えたが、1970 年代に前半に約 1 万トンまで減少し、1970 年代後半から台湾等の漁獲増で 1.5 ~ 2.0 万トンで推移した。2003 年の漁獲量は 2.6 万トンのうち台湾は 1.5 万トンを漁獲した。日本の漁獲量は、近年 0.5 万トン前後で推移している。しかし、これらの数値は、太平洋域で多くの国がまぐろ・かじき類を対象とした漁業を開始した 1980 ~ 1990 年代以降については情報が不足しており、過少評価になっている。今後早急に漁獲統計を整備する必要がある。

資源状態

本資源を太平洋で単一の資源と仮定して Multifan-CL で解析した結果、資源量は 1960 年頃に大きく減少し、その後はあまり変動せず、1990 年頃から若干増加し、現在の資源量は約 4 万トンと推定された。1960 ~ 1990 年代にわたって F/F_{MSY} が 1 を超え、この長期間の MSY レベルを超える漁獲圧の下で、漁獲量は MSY 付近で安定し、また、近年は資源量も増加している。しかし、これら一連の解析での体長データのカバー率の低さや、雌雄同一の成長曲線など、検討・改善を要する課題も多い。



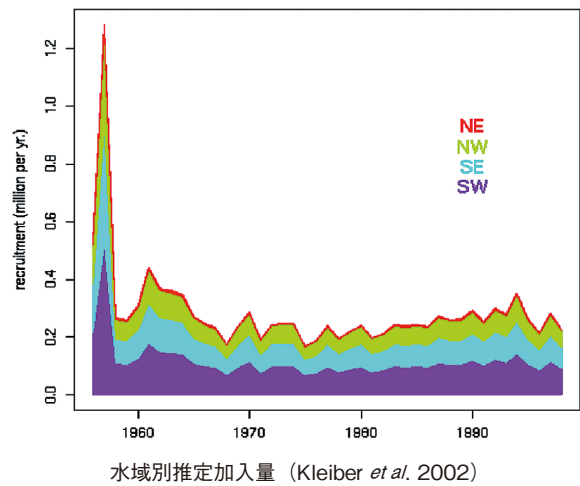
本資源の分布



1951 ~ 2003 年の本資源の国別漁獲量

管理方針

2002 年の研究報告では、資源量は概ね MSY 水準で、近年は若干増加傾向とされ、管理措置を施す必要はないと考えられる。しかし、これ以上の漁獲圧では、資源状態が悪化することも示唆され、資源状態が明らかになるまで現在の漁獲水準を急増加させないことが望ましい。なお、国際漁業委員会等で、漁獲の規制は行われていない。各国の漁獲量統計の不備と、体長・性比・成熟等の資源解析のデータ不足で、資源評価の精度は高くなく、資源状態の解明には、より正確な生態や漁業の情報収集が必要である。



資源評価まとめ

- 推定資源量は約 4 万トン
- 国際漁業委員会等で未検討

クロカジキ (太平洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	中 位
資源動向	安 定
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	18,000 ~ 26,000 トン 平均: 20,000 トン (1999 ~ 2003 年) (FAO 統計値、クロカジキを分類して報告していない国の漁獲量を含まない)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	3,400 ~ 4,500 トン 平均: 3,900 トン (2005 ~ 2009 年) (シロカジキを若干含む)

資源管理方針まとめ

- 国際漁業委員会等の漁獲規制なし
- より正確な生態・漁業の情報収集が必要

